

第1回 鶴岡市SDGs未来都市デジタル化戦略有識者会議 (会議概要)

- 日 時 令和3年3月29日 午後3時30分～5時
- 会 場 鶴岡市役所 大会議室
- 次 第 (1) 鶴岡市のデジタル化の推進について
(2) その他

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員紹介
4. 座長選出
5. 協議
6. その他
7. 閉会

協議の概要

○委員

ペーパーレスの拡大（電子決済、文書管理システム）から取り組むことはいいことだと思う。中央省庁でも進めているハンコレスもある。

コロナ禍における企業への給付金について、申請手続きに必要な申請書類・添付書類が多い。企業が（給付金が）必要かどうかの証明にあたっては、オンラインで完結できるのではないかと。これまで住民サービスといった観点からハンコレスが着目されているが、企業の申請手続きといった面からもハンコレスができるのではないかと。またその先には電子契約、支払いについて、一連の流れで電子化することで（行政側の）業務負担の軽減、企業の業務負担軽減ができるのではないかと考えている。

→ 座長

全ての企業が社会課題を解決にビジネスの商機を見出している。鶴岡市の場合、高齢化や面積も広いこともあり、新しい企業を造っていくうえで課題・メリットをデジタル化で住民の機動を進められれば良いと思うので引き続きお願いする。

○委員

勘違いが多いが、DXは目的ではなくて手段である。DXを進めることで新しいことができる、業務負担の軽減ができるといわれる中で、新しいことができるということが大事で、DXを使ってコトづくりが新しい価値をつくるのが行政にも必要。DXにより新しいことができることがポイントだと思う。その中で意識しなければならないこととして地元の方々が「いい」と思えることが大事。市民の本当の需要、どういった問題を抱えているのか、そういった意見を抽出する機会を得ることが大事。鶴岡高専でそ

ういったコトづくり、本当の需要を調査するワークショップを始めている。

デジタルを担う人材の育成も大事だが、技術を持った人たちを地元に残すことが重要だと思う。そういったこと連動した流れを構築できればいいと思う。

→ 座長

デジタル化の全体の部分であり、取り組みは早く行わなければならない一方、全体のビジョン、ゴールをどこに共有していくのか、それをどうコーディネートしていくのが重要なポイントだと思う。

○委員

約 20 年前に日本政府の IT 戦略 (e-Japan 戦略) の策定に関わったことがある。政府の IT 戦略は色々な評価をされているが、今の民間のデジタル化の土台になっている法制度の中には、この時期に整備されたものもある。IT 戦略には目標年度の設定、すぐに取り組むクイックチャレンジ、長くかかるものといった時間軸の目線が必要だと思う。

デジタルが進んでいくときに、アナログな現場にしわ寄せがいつているように思える。例えば、倉庫の管理システムのようなもので、デジタルに在庫の数値は入れられるが、人はミスするため、システムの数値と実際の在庫がずれていて、現場の作業の生産性が下がることが起きる。デジタルとアナログの境目に課題があり、そういったところに、IT 化が進んでも住民の方が利便性を感じないことがあると思う。そういった中で今回庁舎といったアナログなものを利用するのはおもしろいと思う。

ツールを入れても使う側の発想が変わらなければ定着しないし行動も変わらない。文化や風土といったところをどう変えていくのか、これは存外、エネルギーもかかるが大事なこと。鶴岡市は伝統・文化もあるがサイエンスパークのような先端もあるので、そういったところから鶴岡市らしい文化・風土をどう作っていき、どうデジタル化やSDGs の創造につなげていくかが重要だと思う。

→ 座長

クイックチャレンジが重要だと思う一方、理念やリアルとバーチャルの融合、アナログとの融合に鶴岡市らしさをどう盛り込むかが重要なポイントだと思う。

アナログ的なものも含めて、実際に市民や企業が無意識のうちにデジタル化が浸透して幸せと利便性が実現できるようなデジタル戦略を考えていければいいと思う。

○委員

20 年近くパソコンインストラクターをしていた。当時は 1 家に 1 台 PC がある時代だったが、今は 1 人 1 台持っている。当時の生徒さんとまだ交流があり、当時は 60 代で今は 80 代になったが、それでも先日新しく PC を買ったといわれる。スマートフォンも買ったといわれる。スマートフォンで遠く離れたお孫さんと line 電話をするとのこと。その方々はスマートフォンは使いこなせないと言い、周りに使いこなせる人がい

ないとのこと。同年代の友達が多いからという理由もあると思うが、使いこなしたいというのが本音のようである。私がい方を教えるとやはり使えるようになる。年齢は関係なく、もしかしたら私の友人より 80 代の方が使いこなしているのではないかという現象が非常に多い。そういう方々は強制的に使うようになると慣れてくる。使ってみたら？ではなくこういうように使ってくださいというように使えるようになる。

70 代の方はアイパットを使ってスーパーのチラシを見ながら買い物をしている人もいる。比較的女性の方が PC に興味を持っている。強制的に使うような環境になればものすごく使えるようになるのではないかと思う。(高齢者の) 元生徒同士も l i n e をやっている。私も l i n e を送ったあと、「既読」が付かないと心配になり電話をかけることもあり安否確認もできるので、高齢者の方にはかかせないアイテムになっているのではないかと思う。

私が住んでいる地区は非常に地域コミュニティが強い地域だが、市内は両隣 2、3 軒くらいしかつながりがないこともある。使いたいけど使えないというような方をサポートするようなどころがあれば、もっと年齢問わず広がっていくと思う。今回の Paypay の件でも私のところに多くの方が聞きにきた。ほとんどが私と同じ 40 代 50 代の方だった。少しでもこういった方が使いこなせるようになるように地元目線で力になれば良いと思う。

→ 座長

地元目線でのコメントを期待する。ジェネレーションとか年代だとか性別だとかで先入観を持ってしまうことが多いが、やはり使い慣れていることが多いかということと実際にそれを使って何かをしたいという欲望とかそういったものがすごくデジタル化に良い影響を及ぼすのかなと思う。

あとは委員のように相談ができる人がコミュニティのいると大分違い、私も山形県でとある委員をしていたときに、やはりコミュニティにはそういう方が一人いてお年寄りの方のをサポートをしているが、その人もいつまでもいるわけではなく、そういったコミュニティ単位でデジタル化を進めていく時に、一人ひとりのデジタル化とそれをきちんと見守るコミュニティとか市全体の役割がどうあるべきか重要なことだと思う。

○委員

今は学校で宇宙のお話をさせていただいたりしている。昨年 11 月に宇宙イベントを実施した。廃校になった小学校のところで、JAXA から借りたロケットや宇宙服の模型を展示した。最終日に宇宙飛行士のオンラインで講演会を行った。小学校の親御さんもなれていない人がいて人によって使い方の差があると感じた。

12 月に出産して子育て世代となったが、にこ♥ふるで母子手帳をいただいたが全て紙だった。子育てしているとそういう紙を見る暇がないので、子育て世代にもデジタル化が必要なのではないかと思う。

デジタルは場所関係ないという話があり私も今日はオンラインで参加しているが、場所は関係ないという特徴を生かして広い視野で提案できるようにしていきたいと思う。

よろしく願います。

→ 座長

デジタルの時間・空間を超えた特徴を生かして色々な方のアドバイスをいただきながら進めていくことになるかと思えます。一方で、鶴岡DXを今後どのように進めていくかバランスが難しいが、宇宙時代の地域の活性化がどうあるべきか引き続きやっていきたいと思う。

○委員

私の家は茅葺屋根で文化財であり、観光客が少なくなってどうすれば良いかと考えて、ネットで自分が発信することが一つ的手段だと思った。けがをする前からしている。一市民として感じる事として、作ったから終わりというのは嫌で、本当に欲しいものは市民から聞いていくのが重要。ペーパーレスと言っているのに今の会議の場に結構紙がある。まずは会議の場からやっついていかないといけないのではないかなと思う。「やりたい、やろう」と思っている人たちが「やれない」というのが一番おかしい話だと思うので、まずはそういうところを内側から変えていかないといけないのではないかなと思う。

高齢者向けのデジタル化は難しいと思うが、高校生とか学生と高齢者の交流を作っあけることによって変わってくるのではないかなと思う。高校生が教えることによつて孫の顔をみるためとか、目的がはっきりしたことからはじめると良いではないかなと思う。形だけではなく中身があるものをお話しできたらなと思う。

鶴岡の良さをもっと発信できる何かがあれば良いのかなと思っているのでよろしく願います。

→ 座長

貴重なご意見をいただけると思いますのでよろしく願います。私も東京から来て背広を着て委員会に出てるのも何か違和感があるのかもしれない。私自身が何か変わっていく必要があるのかもしれない。

紙のものをただアイパットに入れているということが結構あって、やはり事前にデータを送っておくことで議論がそこから始まると、最初から説明しないで、そういうやり方についてどうやってデジタルでどのように切り込めるか重要なポイントだと思う。

デジタル化で一番重要なポイントとは何なのかを考えていかなければいけない。写真を送って孫の顔を見せるということからは始める人も私の周りにたくさんいる。

○委員

鶴岡では8年位仕事をしている。価値観が変わってきたなと感じます。物事の物差しとか仕事の在り方、一番大きいのはテクノロジーの進化とパンデミックが同時に起きたと思う。デジタル化により常につながっている人がとても増えている。子育てや選挙も

つながっていることが前提で進めていくことが今後大事になってくると思う。

色々なところとつながっている中で行政がどのように在り方を変えていくのかということが非常に大事だと思っております。サミットでも一番大事な話題になるのがデジタル化、価値観の変容になってくると思います。「鶴岡」という言葉が「鶴岡市民」のためだけの言葉ではなくなると思う。今後世界とつながっているのかで、どのようにやっていくのが重要。

宇宙から見たときに地方という概念を消せないかと色々やっている。佐賀県庁と組んで「スペースサーガ」というプロジェクトを展開している。宇宙から見たときに農業とかサービス業とかどのように変わっていくのかということを実証実験しています。慶応大学とか JAXA とかと農業の方々がつながってどんな産業が生まれるのかなどを実証実験している。全日空さんと有田焼が組んだら一体どんなことができるのか、生かされていない技術をどのように生かせるのかそういったことをやっています。

最後まとめになるが、3つの目が必要であると思う。鳥の目、牛の目、魚の目というが、俯瞰して鶴岡の価値がどこにあるのか見てみるということが重要。もう一つが鶴岡が持つ価値はどのようなことなのだろうかと分析してみる、もう一つがどのように変化しているのか考えていく、こういったことが大事かなと考えている。

→ 座長

連携するのが重要。鶴岡と遠隔地とか色んなところと繋がりながら何か新しいことができるのかポイントとして重要だなと思う。

○委員

地理学を専門としており、最近5年間は庄内の中山間地域における人口減少や過疎化や地域づくりなどに関心をもって取り組んでいる。一方で生産技術学の中では地理情報というものを使って、農業がどのような面で活用できるか技術教育のようなこともやっている。衛星CADを使って稲の生育診断をしたり、鶴岡市・酒田市の買い物が不便なところがどこにあるのかを調査するようなことに取り組んでいます。プライベートでは2児の母で学校の配布物におけるデジタル化を身をもって体感している。

ユーザーの利便性向上の軸になるといいと思うのが、地域課題解決につながるようなデジタル化の柱を設けていただきたいなと思います。買い物が不便なところはどこにあるのか事業者はわからないし、農地の貸借をもっと円滑にして促すような農林水産省の農地ナビのようなものの鶴岡版があれば良いなと思っている。課題を解決するような何かがあれば良い。自治体は市民と距離が近いので潜在的な課題をキャッチしていると思う。ただ潜在的な課題が言語化されていない、或いは市民の方が何となく思っているが言語化されていないからキャッチできていない。それを是非代弁するような形で課題解決に繋がるような、例えば空き家の解消に繋がるようなそういった課題解決に繋がるようなものがあれば、デジタル化のためのデジタル化のようなことから脱出できるのではないかと思う。

→ 座長

今暮らしている人は当然デジタル化を考えていかなければいけない、同時に潜在的な中長期的な課題をどう掘り起こしていくかというのが非常に重要だなと思う。あと農業の視点からも色々アドバイスをもらいたいと思う。私も色々なデータを扱う。特にインフラ系のデータを扱うことが多いが、すべて所有者に帰属している。これを上（宇宙）から見て相互に活用するというのはなかなか難しくなるが、空間的に横断的に見て何が課題なのかを見つけることがデジタル化にとって重要なことだと思う。

○委員

鶴岡という最高の素材とデジタルを使って素材の良さをどのように引き出すのかということが重要なテーマになると思う。

例を挙げるが、鶴岡は農業の強みが非常に高いところであるが、鶴岡で日常的に食べている「だだちゃ豆」だとか「砂丘メロン」だとか、こういったものが首都圏の高級スーパーに並び結構な値段で売られていて皆さんそれを非常にありがたがって食べている。これは鶴岡が気候だとか土壌だとかに非常に恵まれていることに加えて、農家の方々の栽培技術、努力の結果だと思っているが、こういった複合的な農業資源を、単純に農産物を売るとか食べるとかということ以上にデジタルの力を使って地域の活性化のために活用できるのではないかと考えている。

今首都圏では畑をレンタルするサービスが非常に流行っている。1坪とか2坪とかの土地を借りて短いウネを何本も作って何種類も野菜を植えて皆楽しんでいる。自分で育てて自分で収穫した野菜なので新鮮でおいしいと食べているが、とても鶴岡の地場の野菜には適わない。そこで鶴岡の農業資源の良さを知ってもらうため、会社の仕事をやりつつ鶴岡に来て農作業をしてもらい、ワーケーションのように言うと、農働ーションとかアグリ働ーションとかと言っても良いのかもしれませんが、そういった体験のメニューを用意して県外の方に鶴岡で農業にチャレンジしていただくということも考えられると思う。農業をしつつリモートワークで仕事を行うことができれば鶴岡に年に複数回足を運んでいただくことができる。ワーケーションの波及効果として耕作放棄農地の活用とか農業指導とか、利用者が鶴岡に来ることができない期間の農作業の請負のようなことで雇用創出に繋がると思うし鶴岡の農産物のPRだとか、将来的にはアグリ働ーションで感触を掴んでもらって鶴岡に移住・定住してもらおうという効果が期待できるのかなと思っている。

農業以内にも色々ある。学びとか環境、レクリエーションとか色々な素材が鶴岡にあるので、デジタルの力を使いうまく活用していきたい。

→ 座長

農業・農地の活性化、或いはワーケーションも含めてデジタルと鶴岡の活性化の関係性とかをどのように生かしていくのかをアドバイスをいただきたいと思う。

都心から来る人は増えていると聞くがデジタルの力は農業のPRの効果にもなるし、鶴岡というリアルな空間を生かせるチャンスだと思う。

○座長

それぞれから素晴らしいコメントをいただいたと思う。何を指してデジタル化を進めていくのかという観点は非常に重要だと思う。その時にやはりユーザー、地域住民、市、これをひとくくりとして市民のためにと言うのはたやすいが、本当はどこにニーズがあり何をやりたいのかしっかりと把握しなければいけないと改めて感じた。プラス社会課題、地域課題、なかなか気づかない抽象的な課題も含めてデジタルでどのように解決していくのか非常に重要だと思う。

これだけデジタルで皆さんと繋がっている中でこの鶴岡という空間をどのように盛り上げていくのか、内外の人がどういう形で生かしていくのかということデジタル化と合わせて検討していかないといけない課題であると思う。